

2024.04.02 RESEARCH

テクノロジーを使って日本文化を表現 最先端アート「Sound of Ikebana」のメカニズムに迫る



昨年9月に行われたニューヨーク・ファッション・ウィーク（以下、NYFW）でコレクションデビューをしたブランドがある。「[Sound of Ikebana \(サウンドオブいけばな\)](#)」は京都大学教授／アーティストの土佐尚子氏が手がけるブランドだ。最先端のテクノロジーと日本文化を融合させ、エプソンの高度なプリント技術によってデザインを洋服に落とし込んでいる。

生花や能、歌舞伎など、日本文化を題材にテクノロジーを掛け合わせることによってアートとして日本の伝統芸能が進化を遂げるという面白い試みだ。今年2月に行われたNYFWでも2シーズン目となるコレクションを発表した同氏に「Sound of Ikebana」の成り立ちやメカニズム、テクノロジーと日本文化の融合によって生まれるアートについて話を伺った。



世阿弥による能プロジェクションマッピング

PROFILE | プロフィール

土佐 尚子 (とさ なおこ)

京都大学教授/アーティスト

1961年生まれ、福岡県出身。1985年に発表したビデオアート作品がMOMAにコレクションされる。その後、最新テクノロジーとアート、日本文化を融合させた作品を次々と発表していく。2013年に「Sound of Ikebana」を発表。2023年9月にニューヨーク・ファッション・ウィークにて「Sound of Ikebana」のコレクションを披露。

振動は生命の鼓動、サイエンスの力でいけばなをアートに昇華

「Sound of Ikebana」と名付けられたプロジェクトを引っ提げ、NYFWでのデビューとなったファッションショーでは24ルックの発表を行った。鮮やかな塗料がさまざまな形に変化していく様子はまさにアートだ。

「Sound of Ikebana」とは、絵の具などの塗料に、赤ちゃんの産声など音の振動を与えることによって、塗料が飛び散る様子をハイスピードカメラで1秒間に2,000コマ撮影したものだ。スローモーションで変化する液体の様子がまるでいけばなのように見えることから「Sound of Ikebana」と命名された。

音の振動や塗料の色合い、粘性によって出来上がる形は毎回違い、一期一会の世界だ。

「日本文化には“型”というものがあるということを発見して、この型をデジタルを使って表現できると思ったんです。いけばなの型とはアシンメトリーな三角のようなもので、人・天・地の考えが息づいています。

赤ちゃんの産声など音による振動を与えられた絵具の造形が、人・天・地と同じ形状のものを表現することができました。

振動は生命の鼓動、生き物の根源的なものです。音から生まれたいけばなのので“Sound of Ikebana”と名付け、文化の型をデジタル表現を通して新しい創造物ができるということを提唱しました」

京都在住の土佐氏は日頃から日本の伝統文化に触れる機会も多い。「京都に住んでいると自然を摘み取ってアートにするものが結構あるんです。『Sound of Ikebana』も同様で、四季があります」。ハイスピードカメラによって一期一会の音によるいけばなをアートとして切り取っていく。

「私がMIT（マサチューセッツ工科大学）で学んでいたときの恩師がハロルド・エジャートンというハイスピードカメラの生みの親の教え子の先生だったので。

毎秒2,000コマで撮影する被写体の一瞬一瞬の姿は私たちの肉眼では見ることはできないけれど、現実の世界。私たちが見えないものはたくさんあって、最先端の技術から美を見つける。これがとても面白いんです！」

デジタル捺染技術を用いてアートとファッションが融合

NYFWで発表されたコレクションはほとんどのルックにエプソンのデジタル捺染機（SureColor F6350とZEUS）を使用し、「Sound of Ikebana」を土佐氏がデザインした服にプリントしている。



2月にNYFWにて発表された「Sound of Ikebana」のコレクション



2月にNYFWにて発表された「Sound of Ikebana」のコレクション

その技術は高度で、生地の上に非常に鮮明にプリントされている。「最初は圧着時間や洋服に映える絵柄が分からず苦労しましたが、最近では3次元ファッションシミュレーターのソフトを使って経験値が増え、これらの問題は解消されました」

今後は「Sound of Ikebana」のコレクションをアートとしても販売していきたいという。「アートとファッションを繋げて、もっと近いものにしていくことに貢献できたらと思っています」

次ページ: 出発点は、サイエンスの面白さをアートにしたいという想い

この記事シェアする

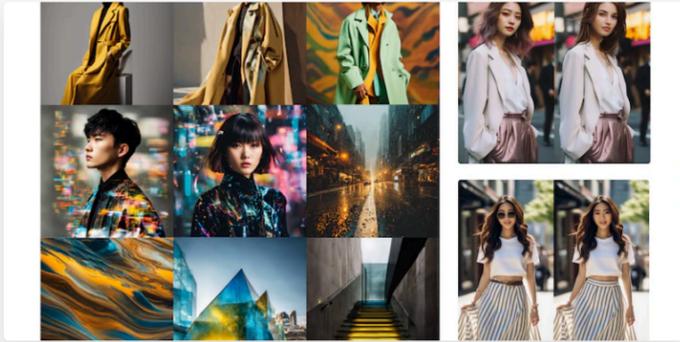


取材&記事リクエスト

ファッションテック領域で気になる人物、情報、ブランド、アイテムなどありますか？

関連記事

RELATED ARTICLES



“業務自動化の実現”を目指す、ファッション業界に特化した生成AI活用支援ツール「Maison AI」

BUSINESS 2024.02.08



モデル名に“パリ”がついた最高峰モデル アシックス「メタスピード」シリーズ最新作のポテンシャル

RESEARCH 2024.04.05



ZOZO NEXTが送り出すデジタルファッションブランド「REVIVAL」

PROJECTS 2023.11.27



日本発の「AIモデル」は、アパレル企業のDXをどのように支援するのか：AI model株式会社

BUSINESS 2024.03.22



フィッシングに特化した「Columbia (コロンビア)」のコレクション「Columbia PFG」 歴史の継承と進化するテクノロジー

CULTURE 2024.04.03



【リレーコラム】ダンボールをかぶることについて— 仮装としての『箱男』— (伴場航)

SERIES 2024.03.28



2024.04.02 RESEARCH

テクノロジーを使って日本文化を表現 最先端アート「Sound of Ikebana」のメカニズムに迫る



出発点は、サイエンスの面白さをアートにしたいという想い

最新のテクノロジーを使ってアートを発表している土佐氏だが、アーティストを志し、20代のときに発表したビデオアートがMOMA（ニューヨーク近代美術館）のキュレーターの目に留まり、同美術館に飾られたことが出発点となる。

「元々アーティストになりたいと思っていたのですが、油絵ができるぐらいの人は大勢います。いろいろ調べていると、ピラミッドや奈良の大仏は、その当時の最先端の技術を使って作られたアートだということが分かったんです。

それならテクノロジーを自分の絵筆にしよう、そう思って発表した作品がMOMAに所蔵されることになりました。1985年当時は映像を音に変換するという最新技術を使ったアートがなかったので、私の発表した作品が目にとまったのだと思います」

その後はインタラクティブなアートを発表するようになり、次第に日本文化を絡めた作品を手がけていく。2012年の麗水国際博覧会での映像制作や山水画の遠近法の原理「三遠」を用いた写真を建仁寺に奉納、京都国立博物館での琳派400年記念「21世紀の風神・雷神伝説」アートプロジェクトマッピング、「Sound of Ikebana」はニューヨーク・タイムズスクエアのスクリーンをジャックし、映像が街を彩った。世界を舞台にテクノロジーとアート、日本文化が融合した作品を次々と発表している。

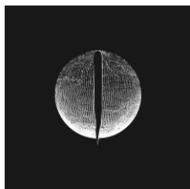


京都府琳派400年記念事業「21世紀の風神・雷神伝説」アートプロジェクトマッピング



2014年4月1ヶ月間、文化庁文化交流使として、ニューヨークのタイムズスクエアをジャックした「Sound of Ikebana Spring」の映像

「とにかく新しいことに挑戦してブレイクスルーしていくことが好きなんです。私はアーティストですが、やっぱりサイエンスが好き。空想ではなく、現実には起こっている不思議なことを最先端のテクノロジーを使って美として創り上げていきたい」



2014年には四季のないシンガポールで四季のある「Sound of Ikebana」の映像を流し、文化交流を行った

自然現象の不思議に魅かれて

現在は京都大学防災研究所アートイノベーション産学共同研究部門のメンバーとして研究を行っている。

「防災研というのは日常的に防災意識を高めるためにさまざまな研究をしているのですが、これだけ自然災害が多いと、地球って生きているんだなと実感します。

現在は目下、自然の力に興味があります。文化文化と言っていますが、文化も自然の力に合わせてできていきます。文化はその国の風土であり、文化と風土、自然は繋がっているものだと思うんです」

去年は津波のシミュレーションマシンから音を取り、そこから「Sound of Ikebana」の手法で津波映像を作成。京阪線から見える防災研究所の壁面に「Sound of Ikebanaで作った津波」の巨大な写真を貼り、「津波だ高台へ」という標語と共に電車の中から見えるようにしたという。

アプリをダウンロードし、そこから実際の映像を見ることができるようにすることで、多くの人に防災意識を日常的に持ってほしいという意図があるそうだ。

9月のNYFWでも「Sound of Ikebana」のファッションショーを行う予定とのこと。今後もニューヨークで日本文化とコラボレーションをした新たな取り組みを行っていく。

Text by Reiko Suga

2 / 2 ページ



この記事シェアする

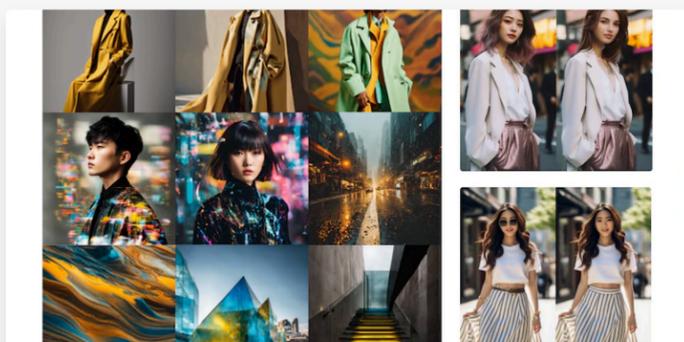


取材&記事リクエスト

ファッションテック領域で気になる人物、情報、ブランド、アイテムなどありますか？

関連記事

RELATED ARTICLES



“業務自動化の実現”を目指す、ファッション業界に特化した生成AI活用支援ツール「Maison AI」

BUSINESS 2024.02.08



FASHION TECH NEWS

FASHION TECH NEWSは株式会社ZOZOの登録商標です

BUSINESS

RESEARCH

PHILOSOPHY

CULTURE

EVENTS

INFO

FEATURES

SERIES

PROJECTS

ABOUT US

PRIVACY POLICY

CONTACT



©ZOZO NEXT, Inc. All Rights Reserved.

JA